

第3回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会参加報告

共通機器部門 放射線管理技術班

笹谷 晋吾

1. はじめに（目的等）

放射性同位元素（RI）について近年新たな利用分野の開拓が積極的に進められており、それに呼応する形でRIの管理についても法令の枠組みの中で対応することが求められている。今回参加した学会ではRIの利用と管理のそれぞれの関連する2つの学会が共同で開催されており、利用側と管理側が互いに議論や情報共有を行うことができる。また原子力規制庁の講演も行われることからRIの規制側の情報についても得ることができる。これらのことから、適切な放射線施設管理を行うための有意な知見が得られることが期待できるため本学会に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和3年12月1日（水）～12月3日（金）

場所：オンライン（WEB開催）

3. 参加者等

約200名

4. 研修内容

保健物理学及び放射線安全管理に関する研究報告、技術報告等

5. まとめと感想

今回の学会では4会場が設定され、それぞれで学会発表及び合同セッションが開催された。RIの使用について α 線核種の新たな可能性が報告されるとともに、既存の管理体系には馴染まない箇所についての議論が活発に交わされ、法令解釈に係わる箇所が興味深かった。またRI事業所にとって近々の課題であるRI規制法改正に伴う測定機器の信頼性確保に関する合同セッションがあり、活発な意見交換が行われ、2年後の施行までに行うべき作業について多くの課題を抽出するいい機会となった。